



(撮影 上野訓宏)

平安京がつくられて間もなくの 795 年、
さかのうえのたむらまろ おうしゅう せいぼつ
坂上田村麻呂が奥州（現在の東北地方）の征伐
せんこう とちゅう ぶうん
で戦功をあげたので、都に帰る途中、武運を
かんしゃ そうえい
感謝するため造営したのが始まりと伝えられ
ています。 その後も、げんじ うやま
源氏の一族に敬われ、
せんしょうきがん きしん
戦勝祈願や寄進がなされました。

かまくらじだい ころ りょうしゅ まさみつ むねまさ
鎌倉時代が始まる頃、小山の領主であった小山政光の二男宗政が、現在の長沼地区にあ
たる、ながぬましやう しはい な の
たる、長沼庄を支配することになり、城をつくり長沼氏を名乗りました。

みなもとのよりとち しゅくはく こひやくこく かまくら
1193年には、源頼朝が長沼に宿泊し、長沼八幡宮に五百石があたえられました。鎌倉
こけにん かんとうはちやかた ※1 ほこ
御家人、さらには関東八屋形^{※1}のひとつとして勢力を誇っていた長沼氏のもと、神社も大
いに栄えましたが、むらまち せんらん すいだい
室町時代の戦乱の時期に衰退してしまいます。

江戸時代に入り、とくがわけ じっごく
1604年、徳川家より十石をあたえられ、現在に続いています。



(撮影 上野訓宏)

どうとりい
銅鳥居

江戸時代の1688年に建てられたもの
です。せいどうせい
青銅製でできています。

※1 関東八屋形：室町時代の関東地方の有力な家。いずれも古くからの名門の一族です。
(宇都宮氏・小田氏・小山氏・佐竹氏・千葉氏・長沼氏・那須氏・結城氏)